

## プロジェクト概要

「骨転移診療のスペシャリストによる

骨転移診療チーム・体制づくりのための教育システム」

2023年7月13日（バージョン2）

研究代表者：佐伯俊昭（日本がんサポーターブケア学会（JASCC）理事長）

実施責任者：柴田浩行（JASCC、骨転移と骨の健康部会長）

### 1. プロジェクトの背景・目的

【背景】骨転移患者数の正確な集計はない。全国に10万人から20万人の骨転移患者が存在すると推定される。今後、進行癌の生存期間が延長すると、骨転移の累積罹患患者数は益々増加する。骨転移は治癒することは少ないので、支持療法は骨転移の治療・ケアにおいて極めて重要な位置を占める。骨転移には多領域にまたがる治療提供者のキャンサーボードで治療方針を討議する。しかし、地域のがん診療病院において、多領域のスタッフを集めることは困難である。このプラクティス・ギャップを埋める必要がある。

#### 【目的】

地域がん診療病院における骨転移診療支援・連携体制の確立を目標とする。

### 2. プロジェクトのニーズ

「骨転移キャンサーボードについて知っていますか？」（日経メディカル・オンライン、2022年、3,107人の医師対象）によると

- ・全く知らない（51.0%）
- ・骨転移キャンサーボードがある（16.1%）
- ・骨転移について個人的に相談する（13.6%）
- ・骨転移について興味がない（19.3%）

約70%の医師が骨転移診療を系統的にできないとされている。

### 3. プロジェクトの対象者

49 箇所の都道府県がん診療連携拠点病院

2 箇所の都道府県がん診療連携拠点病院(特例型)、

333 箇所の地域がん診療連携拠点病院

以上の病院施設等に呼びかけ、医師、看護師、その他の医療提供者の3者をコアとしたチーム医療体制を整備する。このような、チーム医療体制の整備により間接的には全ての骨転移患者に臨床的恩恵が及ぶことを目指す（2022年の秋田県における調査では人口920人に1人の骨転移患者が存在すると思われる）。

#### 4. プロジェクトプラン

フェーズ1：教育システムおよびツールの開発

フェーズ2：教育セミナーの実施

セミナーはリモートで実施できるように整備する

フェーズ3：達成度テスト

合格者は日本がんサポーターブケア学会（JASCC）から認定証を送る。

認定者の名前と所属をJASCCのホームページに掲載する。

フェーズ4：骨転移診療を実践できる医療チームの育成

認定者の所属する施設で医師、看護師、その他の医療提供者からなるチームを構成し、チーム医療研修を受ける。

チーム医療研修が終了した施設はJASCCのホームページに掲載する。

フェーズ5：診療規模に応じた3つの分類

##### 【カテゴリーA 病院】

- ・都道府県がん診療連携拠点病院規模の病院
- ・骨転移がん診療連携拠点病院を独自に開催、
- ・他のカテゴリー病院と連携して骨転移がん診療連携拠点病院を開催
- ・教育セミナーを開催できる。

##### 【カテゴリーB 病院】

- ・カテゴリーA病院に準ずる。
- ・教育セミナーを開催すること以外を要件とする。

##### 【カテゴリーC 病院】

カテゴリーA、B病院と骨転移がん診療連携拠点病院を定期的に開催することを要件とする。

以上の5つのフェーズを通じて骨転移診療の全国均霑化を目指す。

#### 5. タイムライン

フェーズ	1	2	3	4	5
時期	2024.01.01 ~2024.03.31.	2024.04.01 ~2025.12.31.	2024.05.01 ~2025.12.31.	2024.05.01 ~2025.12.31.	2024.06.01 ~2025.12.31.
実施方法	教育ツールの 開発	教育セミナーの 実施	修了者の認定	病院施設認定	骨転移診療ネット ワークの構築
マイル ストーン	テキスト作成、 e-ラーニング 機材の作成	教育セミナーの 開催数	修了者の認定数	施設認定された 病院数	骨転移診療ネット ワークの構築数

## 6. プロジェクトの評価・結果の測定

- ・判定に使用するデータソース

49 箇所の都道府県がん診療連携拠点病院、  
2 箇所の都道府県がん診療連携拠点病院（特例型）、  
333 箇所の地域がん診療連携拠点病院

合計 384 箇所の病院施設に骨転移キャンサーボードの有無、開催件数、討議症例数などについてアンケート調査を行う。

- ・データの収集・分析方法: アンケート調査
- ・評価結果とプロジェクトとの因果関係を判断する方法

本プロジェクト開始後に修了者の認定数、病院施設認定数をチェックし、骨転移診療ネットワークの構築状況を地域別に調査する。

全国の二次医療圏における骨転移診療ネットワークの構築割合を導き出す。これらから、カバー率を求める。

## 7. プロジェクトメンバー

柴田浩行（部会長、腫瘍内科医、秋田大学）

安部能成（副部会長、作業療法士、穂波の郷クリニック）

稲葉吉隆（IVR 医、愛知県がんセンター）

小林英介（整形外科医、国立がん研究センター中央）

佐藤淳也（薬剤師、湘南大学）

永倉久泰（放射線治療医、KKR 札幌病院）

余宮きのみ（緩和ケア医、埼玉県がんセンター）

吉村真奈（放射線科医、東京医科大学）

成田伸太郎（泌尿器科医、秋田大学）

高山京子（看護師、順天堂大学）

東 光久（総合診療医、奈良県総合医療センター）

河野博隆（骨転移研究会、整形外科医、帝京大学）

高木辰哉（骨転移研究会理事長、整形外科医、順天堂大学）

・プロジェクトパートナー：骨転移研究会

骨転移研究会の組織を介して、本プロジェクトの普及に人的資源の提供などの協力などを要請する。